

# 健康に関連する食品等への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

新年を迎え、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

最近、健康関連の商品やサービスへの支出が多くなるなど、健康への関心が高まっています。また、今年の4月からは、メタリックシンドローム（内臓脂肪症候群）等の該当者や予備軍を減らすため、40～74歳の医療保険加入者を対象とする内臓脂肪型肥満に着目した健康診断も始まります。そこで今月は、健康に関する食品等への支出についてみてみましょう。

## 健康関連の食料は増加傾向

まず、食料の中で一般に体によいと言われている酢、ヨーグルト及び納豆について、1人当たりの年間支出金額の推移をみてみましょう。価格変化分を除いた支出金額を平成8年を100とした指数でみると、食料全体は減少傾向を示しているのに対し、これらの食品は増加傾向にあり、18年の酢とヨーグルトは、10年前に比べて約1.5倍となっています（図1）。

## 健康保持用摂取品への支出は10年前の2倍以上

次に、サプリメントなどの健康保持用摂取品<sup>(注)</sup>の1人当たりの年間支出金額の推移をみてみましょう。価格変化分を除いた支出金額を平成8年を100とした指数でみると、18年は、17年と比べると減少していますが、10年前に比べて2倍以上となっています（図2）。

## 世帯主の年齢とともに増加する健康保持用摂取品への支出

最後に、世帯主の年齢階級別に1人当たりの健康保持用摂取品の年間支出金額をみると、世帯主の年齢が高い世帯ほど多くなっています。また、平成18年の年間支出金額を10年前と比べると、すべての年齢階級で多くなっています。特に60歳以上の世帯は、約2倍となっており、最も大きく増加しています（図3）。

(注) 健康保持用摂取品... 栄養成分の補給など、健康増進のために用いる食品で、錠剤、カプセル、顆粒状、粉末状、粒状、液（エキス）状など通常の医薬品に類似する形態をとるもの。

図1 食料の世帯員1人当たり実質金額指数の推移

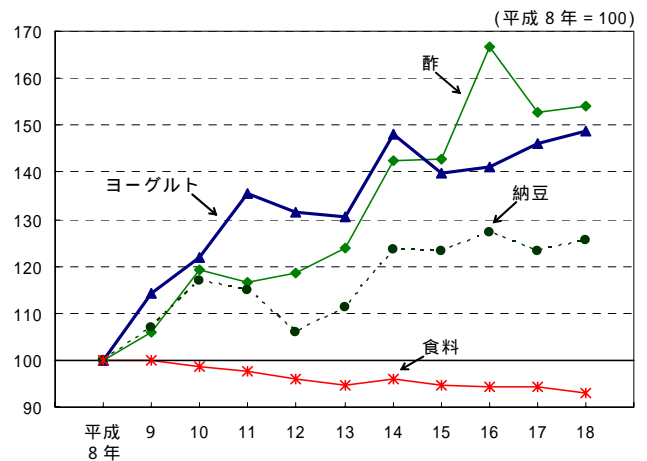


図2 健康保持用摂取品の世帯員1人当たり実質金額指数の推移



図3 世帯主の年齢階級別世帯員1人当たり健康保持用摂取品の年間支出金額 (平成8年、18年平均)

